北海道鯵資源の研究 (第四報) 東北沿岸の小鯵の漁況と 北海道春鯵の稚魚量*

Studies on the Stock of Hokkaido Herring. IV
Appearance of young Herrings along the Coast of North-eastern
Hondo correlated with the Production of the Plentiful
Year-classes along the Western Coast of Hokkaido

川 名 武 T. KAWANA

(東海区水産研究所)

Young herrings were taken along the coast of Iwate-ken and Miyagi-ken by set nets exclusively in spring of the year (or, rarely, of the two successive years) following that when unusually plentiful year-classes were produced along the western coast of Hokkaido. In spring following that of the usual production of year-classes along the coast of the latter coast no catch of herring along the former is recorded.

山口¹⁾は北海道西海岸で孵化した鯵稚魚はオホーツク海から太平洋に入り 1, 2 年の幼魚時代を過し, 3 年以後親魚となつて滞留するとなし, 又北海道太平洋岸の小鯵漁獲高は西海岸の春鯵の稚魚量と關聯することを指摘した。

今度, 木村博士の好意により, 昭和 11 年から 19 年 (1936~1944) までの岩手宮城両県下の定置網の漁獲記録から小鯵の漁獲高を調べて見た結果を茲に報告する。

調査した漁場 岩手県下……………羅賀。姉ヶ崎。壽久洞。宮古二丁目。同三丁目。根滝。小谷島。大島沖網。御宿崎四丁。三貫島。鍋弦。釜石大輪。釜石沖網。ニツ水。黒崎。仁位達。汐折。大入。蛭子木。以上 19 ケ統。

宮城県下……………菖蒲田。江島。田代島。

以上 3 ケ統。合計 22 ケ統。

以上のうち, 小鯵の漁獲のあつたのは岩手県の三貫島, 仁位達, 汐折及び大入の四ヶ所と, 宮城県の菖蒲田のみで, 岩手県の南部から宮城県の北部に亘るリアス式海湾を控える漁場に限られている。

初漁期の最も早いのは昭和 13 年 (1938) の 4 月 2 日, 終漁期の最もおくれたのは昭和 15 年

(昭和 25 年 3 月 31 日受理)

* 東海区水産研究所業績 才 22 号

(1940) の 6 月 29 日で年により相当の差異がある。盛漁期は 4, 5 月で、獲れだすと数日継続するのが常である。毎年獲れる訳ではなく、漁獲のあつたのは昭和 12 年 (1937), 同 13 年 (1938) 同 15 年 (1940) 同 18 年 (1943) の 4 ケ年のみである。之と北海道春鯨の稚魚発生量²⁾とを比較して見ると、大発生年の翌年 (昭和 12 年発生のは翌々年に亘る) に獲れ、平年の発生状態の翌年は皆無である。而しこれは量的にはいえない。

これが北海道西岸に発生したものであるかどうかは判定の資料を欠くが、若し別のものでは発生条件は北海道西岸も太平洋岸も同一の要素に支配されるものと解される。

何れにせよ、北海道春鯨の三年鯨の出現を予想する一つの手掛りとなることが出来、この地方の調査は北海道太平洋岸や北見沿岸の調査と共に重要であることを示す。

終りに臨み貴重な材料を提供して下された木村博士及び材料の整理と計算にあつた竹谷月江嬢に感謝の意を表する。

文 献

- 1) 山口元幸: (1926) 北水試水産調査報告 18。
- 2) 川名 武: (1949) 日本水産学会誌 14, 4。